

# アーカイブ Data Report NO. 57

(2020年11月6日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F  
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

## 過去の資料で「学習指導力、学力向上」の課題解決(2) —学びの基礎として実践力を高める—

平野 朋美 (岐阜女子大学院生)、佐々木 恵理、  
後藤 忠彦、齋藤 陽子、横山 隆光 (岐阜女子大学)

### 1. 課題を調べる!

デジタルアーカイブを用いた課題解決の一例として、どのように学習指導をすれば学力の向上に結びつくか調べる。その方法として、索引語として学習指導・学力向上がメタデータに記録されているデジタルコンテンツのキーワードの合計表を求めた。

沖縄での学習指導、学力の向上に関連する過去(1967年～)から現在の資料を、デジタルアーカイブを用いて調べた。その結果、学習指導の基礎として、次の図のような各項目が重要であることが教育実践研究報告から見出すことができた。

学習指導の基礎 (分類)	
項目	出現頻度
* 発問	0.29
* 確認	0.25
* グループ・全体討論	0.18
* 教師と学習者の話し合い	0.21
* 授業の構成	0.45
* 操作言語	0.12
* 繰り返し学習	0.07
他	

学習指導資料のキーワードの分布

(注)言葉は用語と用語を結びつけ、論理的な証言で使われる「～から～まで、ので・・・」のような機能語(操作言語:論理的思考操作に関する言語)である。\*の項目は、サーチャアナリストが専門的視点で主要項目と判断した。

これらの各項目についてのデジタルコンテンツを抽出し、その分析、解析し、学習指導に役立つように整理し、さらに、初任者でも理解できる手引きを構成した。

### 2. 学習指導を支える各指導項目の整理 (約2000時間の授業記録より)

#### (1) 発問

発問については、No.56に報告している。

#### (2) 確認

①確認の考える時間はほぼ0である。

(応答時間)～(受け止める)、(考える≒0秒)、(決定行動)

②反応時間が長くなれば、

- ・児童にとって発問ではなかったか(確認の1/2は8秒以内に応答している)
- ・児童にとって受け止めが困難でなかったか検討、反省し、その理由を検討する。

発問と確認の反応時間の違い			
小学校	Q1	Q2	Q3
確認	4秒	8秒	14秒
発問	10秒	14秒	20秒

(3) グループ・全体討論

①1960年代当時のグループ討論、全体討論が形式的で全体討論の時間が短かった。

(注) 現在の話し合いもこのように形式的になっていないか反省すべきである。

討論の所要時間			
	Q1	Q2	Q3
グループ	2.2分	3.0分	4.0分
クラス全体	1.2分	1.6分	2.4分

②岩田晃先生は、グループ討論の平均時間5分、全体討論の平均時間7.2分

例) 課題の与え方は、「予想」と「調べる方法」を合わせて話し合わせた。(話し合いの課題について初任者は、内容の検討が必要)

(4) 教師と児童の話し合い…深い話し合い(学び)

「まとめ」などで、教師と児童が話し合い課題を解決するプロセスで

①約50%~75%(半数以上)が理解すると、これまでの話しの内容と違った意見を出す。

②意見を出させ、学びに深みを入れる。

(5) 授業の構成(分節の数)

・学習意欲を高めるため、多くの授業では、3~6回の区切りを入れている。(分節)

・ベテランの授業では、導入と「まとめ」に要する時間がほぼ同じであり、数分を要している。

(6) 繰り返し学習

繰り返し学習は、グラフのように数回は必要である。(1回の学びで覚えるものではない)

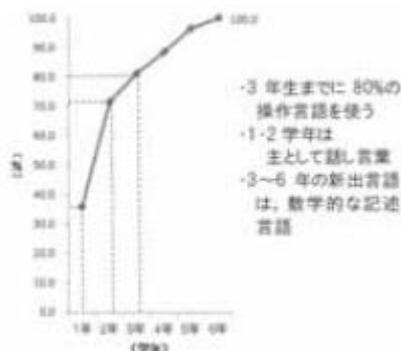
①説明の「ある」「なし」で、学習の正答率が大きく変わる。簡単な指導がいかに重要か。

②正答率が80%以上または上昇なしになれば、**正答者には発展的な内容、誤った者にはより基礎的な問題**を出したり、指導方法を変えたりする。

③上位の者も下位の者も、できない問題の個人指導を短期間にする。(短期間で丁寧な個人指導を心掛ける)

(7) 言葉(操作言語)

用語と用語を結びつける言葉は小学校の3年生までに80%が教科書で使われている。また、同じ言葉でもその意味により理解機能が変わる。



理解度	00	05	1.0
0 ~ 25%	教師	教師	学習者
25 ~ 50%	学習者+		
50 ~ 75%	教師	学習者-	学習者+
75 ~ 100%	教師	学習者+	

学習者の+, -は、発言内容により(+) (-)と区別

